**咲かせましょう 多文化共生の花**

**大崎市立おおさき日本語学校 開校**

　最近、外国人を街で見かけることが増えたと感じませんか。本市でも令和3年3月1日時点で833人だった外国人人口が、令和7年3月1日時点には981人に増加しています。

　外国人が増加している中で、互いにとって住みやすいまちづくりに必要となるのが「多文化共生」です。多文化共生とは異なる国籍や民族の人が、互いを尊重し対等な関係を築きながら、地域社会の一員として共に生きていくことを指します。

　本市では、「大崎市立おおさき日本語学校」を核として、多文化共生のまちづくりを進めていきます。日本語学校を通して、多文化共生について考えてみましょう。

問い合わせ　大崎市立おおさき日本語学校 電話23-2245

**大崎市立おおさき日本語学校　始動**

**全国初 公立の認定日本語教育機関**

大崎市立おおさき日本語学校は、令和5年3月に近隣の小・中学校5校の統合に伴い閉校した旧西古川小学校の跡地を活用しています。公立の日本語学校としては、北海道東川町立東川日本語学校に次いで全国2例目であり、国の新制度に基づく文部科学省認定日本語教育機関としては、全国初の公立の日本語学校です。

　3月24日、大崎市立おおさき日本語学校開校式を行いました。式典には、地域住民のほか、市や県の関係者が出席し、開校を祝うとともに日本語学校を核とした「多文化共生社会」の実現に向けた決意を表しました。

　また、4月10日には入学式を行い、ベトナムから9人、インドネシアから3人、台湾から16人の計28人の留学生が入学しました。今期入学した留学生は、古川地域中里地区の学生寮を生活拠点として、ＪＲ古川駅―西古川駅間を陸羽東線で通学し、1年から2年にわたって、日本語や日本の文化、ルール、マナーなどを学びます。同日、JR古川駅では地域住民が留学生を出迎え、温かく歓迎するとともに声援を送りました。

**日本語学校が持つ可能性**

本市の総人口は、平成12年の13万9,313人をピークに減少し続け、令和７年3月1日時点には12万1,671人となっています。全国的な傾向と同様に、老年人口の増加や年少人口と生産年齢人口の減少に伴い、少子高齢化による人口減少が大きな課題です。そのような中で、留学生が本市に愛着を持ち、魅力を世界に発信したり、卒業後も「大崎市民」として地域で活躍したりすることを通して、交流人口の増加や地域活力の維持につながることが期待できます。

　また、「多文化共生社会」の実現に向けた地域住民と留学生の交流を通して、新たなにぎわいの創出や地域の活性化につながるなど、日本語学校には多くの可能性があります。

**教えて先生 日本語学校ってどんなところ？**

　本市に開校した日本語学校は、どのようなところなのでしょうか。大崎市立おおさき日本語学校の特色について紹介します。

そもそも日本語学校とは

日本語を母語としない外国人を対象に日本語教育を行う教育機関です。日本語学校で日本語を学ぶことで、大学への進学や就職、日本での生活に必要な日常会話の習得などを目指すことができます。

大崎市立おおさき日本語学校の教育理念

「新しき和の創造（ ）」

　「和」をキーワードに理念を掲げています。「和」には、互いに仲良くする意味の「調和」、2つ以上の要素を加えた値の「総和」、争い事がなく、穏やかな状態である「和み」や「平和」、また日本や日本語学校を表す言葉としての意味が込められています。

　学習と活動の場所は学内に限りません。地域全体へと広げ、住民や小・中学生などとの交流を通して、言語のみならず風土や文化も含む「日本」を理解した人材の育成を目指しています。

タイム

毎週1回、地域住民や小・中学生、高校生との交流、農業体験などの活動の時間を設け、「」を肌で感じる授業を実施します。いわば日本語教育機関における「総合的な学習（探求）の時間」であり、大崎市立おおさき日本語学校独自のカリキュラムです。教科書から離れ、学外との関わりを持つことで、総合的な日本語能力の向上をはじめ「日本」についての学びを深めます。

**日本語学校ってどんなところ？**

**教育環境も充実しています**

教室

タブレット端末や電子黒板などのICT機器を設置し、留学生の学びをサポートしています。

祈りの部屋

特定の宗教を信仰する留学生のため、祈りの部屋を設けています。

図書室

好きな本を楽しく読んで、日本語を身に付ける「多読」の授業で使用します。本を言語レベルに応じて選定・分類しており、留学生は自分のレベルに合った本から順に、辞書は使わずに読み進めていきます。

展望室

四季折々の風景や世界農業遺産「大崎耕土」の景観を楽しんだり、ほっと一息ついたりするのに最適な場所です。

みんなの部屋

主にランチルームとして使用されるほか、留学生間や地域住民との交流の場としても使用されます。

**留学生の夢と大崎市での学びへの期待**

夢を叶えるスタートラインに立った留学生を代表して、3人に夢や大崎市立おおさき日本語学校での学び、大崎市での生活について、話を聞きました。

ズオン ティ ティエンさん（ベトナム）

　東京都で実習生として3年間仕事をしながら、日本語を勉強しました。勉強を進めるうちに、日本や日本の文化が好きになり、さらに学びを深めるために日本語学校に入学しました。

　大崎市に来て1週間が経ちましたが、地域の皆さんが親切で、特にJR西古川駅での温かい歓迎に感動しました。これからの地域の皆さんとの交流が楽しみです。通訳になるという夢のため、留学生同士で苦手なところを助け合い、卒業まで楽しく学んでいきたいです。

写真：ズオン ティ ティエンさん

セルジオ ニコラス アリフィンさん（インドネシア）

日本のアニメが好きで、日本語や日本の文化を勉強したいと思い、日本語学校への入学を決めました。また、おいしい日本の料理も好きです。料理が得意なので、先日はうどんやつけ麺を作りました。

　学校生活は始まったばかりで、不安もありましたが、地域の皆さん、学校の先生やスタッフ、JR西古川駅で毎日出迎えてくれる駅員さんが、とても優しくサポートしてくれます。これからの勉強が楽しみです。

写真：セルジオ ニコラス アリフィンさん

さん（台湾）

小さい頃から日本を代表するアニメ映画を見て、日本が好きになりました。今では、日本の歴史を感じる建物やレトロな雰囲気のものも好きです。

　大崎市は田んぼなどの自然が多く、空気が良いと感じます。鳴子温泉に行きましたが、温泉街の景観がとても気に入りました。立ち寄った店のおばあさんも親切で、人が温かいまちだと思いました。

　将来は、日本の商社への就職を目指しています。おおさき日本語学校でたくさん学び、夢を叶えたいです。

写真：黄俐雅さん

**多文化共生社会の実現に向けて私たちができること**

外国の伝統や習慣、文化を理解することで、共に生きる土台を築くことができます。豊かで持続可能な社会に向けて、「違い」ではなく「多様性」として捉え、互いを認め合い、価値観を尊重することが大切です。

　互いを理解するためにはコミュニケーションが欠かせません。まずは簡単なあいさつから始め、積極的に交流を深めましょう。その際には、簡単な言葉で表す「やさしい日本語」を使い、日本語を母語としない人にも分かりやすく伝える工夫をすることで、円滑に会話することができます。留学生をはじめとした外国人住民が、本市を「第二の故郷」と思えるよう、交流を通して温かい絆を育みましょう。

　私たち一人一人の小さな行動が、多文化共生社会の実現につながります。多文化共生の花を咲かせるため、今日からできることを始めてみませんか。